



# PADTOOL for Visual Basic.NET

VB 5.0/6.0から.NETまで対応したドキュメント自動生成/開発支援ツール

磯山 賢司  
ISOYAMA, Kenji

動作OS Windows 98/2000/NT4.0/XP 対応開発環境 Visual Basic 5.0/6.0/.NET

備考 Word 97/98/2000/2002、Excel 97/2000/2002 (関連出力機能を使用する場合) 価格 49,800円 (税別)

問合せ先 茨城日立情報サービス株式会社

TEL 03-3762-0273

URL <http://www.ijs-inet.co.jp/den/vbnet/vbnet.html>

FAX 03-5767-3579

MAIL [padtool@deo.ijs.hitachi.co.jp](mailto:padtool@deo.ijs.hitachi.co.jp)

## はじめに

システム、すなわちプログラムは“生き物”と同じです。ユーザーにより刻々と追加される要望に応え、その姿かたちを変化させてゆきます。それら見映えの変わったプログラムたちの姿を語るのに必要な「仕様書」の改訂ですが、日々のシステム開発に追われていて、なかなか手が回らないというのが現状ではないでしょうか。

ここ数年、CASEツールを筆頭にドキュメント作成など開発支援ツールのニーズが高まっています。これら開発支援ツールが多くの書籍や雑誌などで紹介されていることは、現役バリバリで活躍している本誌読者であれば、よくご存知のことかと思えます。

しかし、これらの開発支援ツールは多くの場合は高価であり、開発費用の削減などが謳われている昨今において、導入を渋らせる一番の原因になっているのではないのでしょうか？

現在、そしてこれからのシステム開発の労力を軽減するには、今回ご紹介する開発支援ツールが最適です。

## 製品概要

PADTOOL for Visual Basic.NET (以下PADTOOL/.NET) は、茨城日立情報サービス株式会社が開発/販売を行なっている「VB開発支援/ドキュメント自動作成ツール」です。Visual Basic.NET (以下VB.NET) が登場する以前のVisual Basic (以下VB) の頃より好評を得ていた製品なので、VB.NETに移行した開発者は首を長くして待っていたことでしょう。

同社では、今回紹介するVB.NET対応バージョンの他に、すでにVB4.0/5.0/6.0を使用しているユーザーを対象として開発支援/ドキュメント自動生成を行なう「PADTOOL/VB Ver3.0 Professional Edition」を発売しています。しかし、今回ご紹介するPADTOOL/.NETでは、VB5.0/6.0にも対応しているので、VB5.0/6.0のユーザーは迷わず、このVB.NETバージョンを選択するべきでしょう。

PADTOOL/.NETは、VBで作成されたアプリケーションのソースを解析し、表1に示すようなドキュメントを自動作

成することができる他、アプリケーション開発を強力に支援してくれます。システムの新規開発/改造保守、プログラム設計書/マニュアル作成などの効率を、飛躍的に上げることができます。

PADTOOL/.NETの最大の特徴は、これまでのバージョンで培われてきた「PAD (Problem Analysis Diagram)」によるプログラムの論理構造の視覚化機能で、複雑な構造をもつプログラムを理解するための、大きな助けとなっています。

これ以外に、同様の機能をもつその他の製品と比べると、以下のような特徴があげられます。単にドキュメント自動生成ツールの枠を超えた機能をもっていると言えます。

- VB.NETに対応
- アプリケーションフォームのビジュアル解析および出力
- 開発環境 (VS.NET) との連携 (開発支援機能)
- ドキュメント内における相互リンクの強化

また、基本的な操作性については、これまでのバージョンのPADTOOL/VBと大差ありません。項目設定などのダイアログについては、より直感的なユーザーインターフェイスに変更され、操作性の向上に貢献しています (図1)。このため、PADTOOL/VBを利

### 本稿で使用した環境

O S | Windows XP Professional (SP1)  
開発環境 | Visual Studio .NET Enterprise Architect (SP2)  
C P U | Pentium III 1.2GHz  
メモリ | 640MB  
その他 | Office XP (SP1)

図1: 「表示オプション設定」(左:旧バージョン「PADTOOL/VB」、右:「PADTOOL/.NET」)

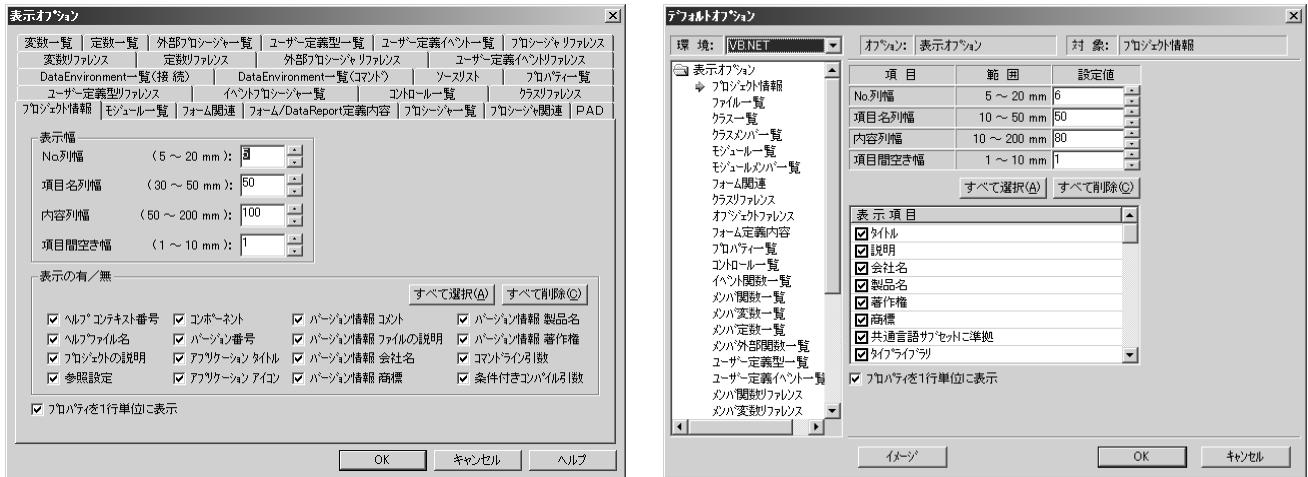


図2: PADTOOL/.NETのセットアッププログラム



図3: PADTOOL/.NETの設定項目(「オプション」メニュー)



[セットアップ] ボタンをクリックすると専用のインストーラが起動し、インストールが行なわれます。

プログラムもコンパクトなうえ特殊な設定項目もないので、インストールは簡単に終了します。

用してきたユーザーで、かつVB5.0/6.0を利用しているユーザーにとっても、バージョンアップするだけのメリットは十分あります。

## インストール

セットアッププログラムを起動すると、図2の画面が表示されます<sup>[注]</sup>。この画面で一番上のPADTOOL/.NETの

## 「オプション」メニューの設定項目

PADTOOL/.NETの設定項目は「オ

注) 図2にあるように、他の製品も選択できるようになっていますが、インストールできるのは購入した製品のみなので、ここではPADTOOL/.NETのみ、インストールできます。

表1: 生成できる主なドキュメント

ドキュメントの種類	ドキュメント名
プロジェクト情報	プロジェクト情報、ファイル一覧、クラス一覧、クラスメンバー一覧、モジュール一覧、モジュールメンバー一覧、フォーム関連、クラスリファレンス、オブジェクトリファレンス
ファイル情報	クラス一覧、モジュール一覧、ユーザー定義型一覧、ユーザー定義型リファレンス、ソースリスト
モジュール情報	フォーム定義内容、フォーム定義内容ビットマップ、プロパティ一覧、コントローラー一覧、イベント関数一覧、メンバー関数一覧、メンバ変数一覧、メンバ定数一覧、メンバ外部関数一覧、ユーザー定義型一覧、ユーザー定義イベント一覧、メンバ関数リファレンス、メンバ変数リファレンス、メンバ定数リファレンス、メンバ外部関数リファレンス、ユーザー定義型リファレンス、ユーザー定義イベントリファレンス、クラス説明書、モジュール説明書、関数関連、PAD